

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社 光洋エステート		
事業所名	グループホーム 日吉 A棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0173600487-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方の力もおかり、人としてゆったりとした気持ちで生活できるように支援したいと考えています。

入居者様・ご家族様がホームでの暮らしが安心できる。楽しいと思っ頂ける様に支え合い、共感する支援に努めています。

職員の笑顔、穏やかな口調で接することで、気持ちが通じると考えています。職員の意識が変わる事で入居者が変わる。と考え 職員教育に力を注ぎたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 日吉」はバス停から数分の閑静な住宅地に立地している。2ユニットの建物内は広く、居間や廊下の装飾は家族も楽しめるように通信の掲示にも工夫が見られる。開設14年が経過し、管理者と職員は利用者や家族が安心できる環境づくりを、新鮮な目で見直し熱心に取り組んでいる。前回の課題もほぼ達成している。行事を通して住民や子供たちと継続して交流している。地域の津波避難訓練には利用者も参加して住民と一緒に避難し、事業所の火災避難訓練は消防署の協力で町内会役員の参加を得て行っている。リスト表を作成して必要な災害備蓄品を整えている。管理職会議では職員の育成を重点的に取り組み、職員は研修やカンファレンスで各種を学びながら、利用者を尊重した言葉がけで丁寧に対応している。毎月のカンファレンスで職員の支援と気付きの内容を基に個別の意向を取り入れて介護計画を作成している。利用者は職員の同行で日課にしている散歩を楽しんだり、家族の協力で地域で実施している認知症カフェに参加して交流している。管理者と職員の真摯な姿勢は家族の安心感に繋がり、感謝の言葉も多く、信頼関係を深めながら率直な意見を得て運営に反映させている。申し送り時に職員は理念に沿ってどのように取り組むかを伝え、ケアに活かしながら日々笑顔で利用者へ接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に組み込み各ユニット、事務所に理念を張り出し、ケア会議等で話し合い、共通認識を持つように努めている。又申し送り際に理念に沿った支援予定を報告し考える機会を作っている	地域密着型サービス視点を盛り込んだケア理念と宣言書の内容をパンフレットに挟んで外部にも周知している。申し送り時に当番の職員が理念に沿ってどのように取り組むかを伝え、業務日誌にも記録して共有しながら理念の浸透化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り町内、地域の行事に積極的に参加し、回覧板等の交流を図っている。又小学校との交流をしている。	町内会主催の津波を想定した避難誘導に利用者も参加し、住民と一緒に避難している。小学生が来訪し、その際に撮った交流場面の写真をファイルにして、いつでも楽しめるように工夫している。小学生からお礼の手紙もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、勉強会を開催したり、ホーム内の日々の報告を行い地域交流を密にしながら相談させて頂きながら理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ホーム内の日々の報告、入退院状況、介護度の報告を行い又苦情等に対して意見を頂き、サービス向上に活かしています。	会議には町内会役員数名、行政担当者、近隣住民、4～9名程の家族の参加を得て、外部評価課題の取り組みについて報告し、率直な意見が得られている。認知症の小冊子を用いてミニ勉強会も行っている。水害から土嚢を準備した情報を提供し、防災について意見を交換している。	会議案内にメインテーマを記載し、参加できない家族の意見をも話題にし、質疑応答、意見・情報交換などの内容が具体的に分かるような議事録の工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔が見える付き合いを心掛けており、疑問、相談、協力依頼もお願いしながら開けたホームに努めている。運営推進会議に参加頂いている	行政担当者は運営推進委員なので、その都度相談している。今年度は実地指導の際に市役所に出向いて分からない点を確認している。市のSOSネットワーク事業のほか、ほっとカフェ(認知症カフェ)活動に協力し、利用者と家族の参加に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に研修を行い身体拘束について学ぶ機会を設け周知しており、不適切な言葉かけについても、研修を行っている。夜間は施錠しているが日中は施錠していない。	身体拘束についての外部研修に参加した職員は会議で報告している。今後は具体的な内容で内部研修を予定している。研修会の際に身体拘束禁止行為の11項目も確認している。カンファレンスで不適切な言葉などの資料をもとに、命令的な口調や指示語がないよう話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも参加身体拘束について、学ぶ機会を設けている。カンファレンス会議でも、不適切ケアの勉強会各ユニットでも、意識をもち日々取り組んでいる。理念と共に取組み宣言書として掲示している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様された方が、今後成年後見制度の利用する予定をしており、活用について支援できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得頂ける様に説明、同意頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。又ケアプラン更新の際や面会時等に本人、家族に対し話を聞く様努めている。又意見、要望があった時には、運営推進会議にて報告させて頂いています。	家族の来訪時に支援方法を話し合い、共に利用者を支える姿勢で対応している。連絡事項などを個別に記録して共有している。今後は些細な想いをも記録し、個々の意向を把握しながら職員が連携して対応できるように考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職会議又毎月の報告等で、実績、勤務状況を報告し、意見等提案できる機会を設け反映させている。	ユニットごとにカンファレンスで主にケアについて話し合い、職員の意見を取り上げて業務改善なども行っている。管理職会議で特に職員の育成を重点的に取り組み、職員も共有して学びを深めている。管理者は面談で個人的な相談にも乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に力をいれ反映させている。、又管理者は、職場環境の整備・職員のやりがいを育てるよう、責任を持って仕事ができるように見極め行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て就業年数により見合った研修を受けて頂くよう努めている。又支援会社と合同研修も企画し向上できる様進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会等にて研修会・親睦会へ参加できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった時には、ご家族様・本人と信頼関係が出来るように努め、入居時には、家族様からの情報を基に、本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や悩みを共有しながら傾聴し時間をかけ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、職員の話し合いにより以前使用しているベット等の高さなど本人にあった対応に努めている。又レンタルの相談も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今出来ることを見つけて出来る限りスタッフと一緒に歩いていく等の工夫をしている。又話しやすい、分かりやすい内容でコミュニケーションをとれるように関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で、ご家族に相談、報告し、ホームと一緒に支援することで、家族の絆を大切にし本人を支えていく関係を築いている。支援方法についても話し合いを持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が、釣りを趣味にされていた為、日課の散歩コースを海沿いにし、楽しんでいる。又久しぶりに会うご兄弟等居室でゆっくりお話しできるように、セッティングを行い支援に努めている。	散歩を日課にしていた習慣を入居後も継続できるように、意向に沿って職員が同行している。地域から入居している方は、知り合いの人がボランティアで来訪した際に挨拶を交わしたり、通院時に病院に受診に来ている知人と会話を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者と関わりが薄い入居者には、本人の気持ちに添いながらも他者と関わりを持てるようさりげなく間に入り良い雰囲気作りし支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、面会に行く等関係を継続、ご家族さまが相談に来られた時には、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族様から希望・意向を聞き検討支援に努めている。困難な方は、本人の様子から検討、家族の意向も取り入れて相談検討している。	計画の見直し時には、利用者とも出来そうなことを話し合っている。会話が難しい方には話しかけて反応などから思いを職員間で検討し、その都度介護計画サービス書(1)に記載してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者から情報提供や、ご家族、ご本人からの聞き取り等で生活歴の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々のアセスメント・会話などで変化を見抜けるよう努めているが、まだまだ気づけていない部分もあると感じている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングや意見の出し合いを行い、ご家族様が来所された場合や電話などで相談話し合い、計画を作成している。	毎月のカンファレンスで、職員は支援と気付きを意見集約表にし、それらを基に3か月ごとに評価を行い介護計画を作成している。計画に連動して実施内容を介護記録に記載しているが、見直しに繋げる観点から更に充実した内容が望まれる。	できている部分もあるが短期目標に沿って、サービス内容を記録する時に、いつもと違う状態の変化なども記載し、次の見直しに活かされるような記録の方法に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメント及び申し送りノート、センター方式のシートなどを活用し情報共有、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話から本人の意向を汲み取り、取り組むように心がけている(買い物・外食・散歩等)個別支援に力を入れ、職員の話し合いを多く持っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、町内の行事、小学校の行事などへ参加。楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご本人 ご家族様の意向にそって行っている。又健康管理等も含め定期的受診及び随時受診を行っている。	各病院の通院を軸に、かかりつけ医は家族が対応し、受診時には健康情報を書面で渡して結果を把握している。協力医療機関の定期的な受診は職員が同行している。受診内容を時系列に記録し個人ファイルに綴じて共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2Wに一度、訪問看護師に相談アドバイスをもらっている。又体調不良時には、相談し指示を頂き適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等により、医療機関に提出している。早期退院に向け、病院からの情報を頂き、退院できるように相談に努めている。又日頃から、病院関係者(相談員)と連絡を取り合い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針について説明、署名捺印を頂いている。ご家族の意向を出る限り希望に沿いたい、事業所で出来る事、出来ない事を十分説明する。しかし納得いただけない所があり、今後話し合いを持つように取り組んでいる。	利用開始時に対応指針の文章をもとに、事業所で出来る範囲の内容を説明し同意を得ている。食事が摂れない時は、通院や制度で可能な訪問看護師での点滴も行い、可能な限り事情に沿って対応している。主治医や家族と話し合った内容を記録化して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には、「普通救命講習」を受けて頂き、実践力を身に付ける様に心がけているが、定期的には行っていない。今後検討して行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。又地域の津波避難訓練にも参加、万が一の場合の協力要請を日頃より心がけている。	6月に夜間を想定した総合訓練を消防署員立会いで行い、町内会役員は誘導後の見守りで参加している。11月には日中を想定した避難・誘導の自主訓練を行い、災害時に必要なリストを作成し備蓄品類も保管している。地震などは今後の課題である。	昨年に引き続き地震などの災害を想定し、居室や居間などの安全面の確認やケア場面での対応について職員間で話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前に、入居者への声掛け及び対応に配慮が欠けているとの指摘があり、職員全員で認知症の理解と共に人格を尊重した言葉かけ等研修を繰り返している。	命令的な言葉や指導的な言葉は使わないように指導し、カンファレンスで言葉遣いや対応について再確認している。申し送りや記録時も、個人名が特定できないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の決定、飲み物を選んだり、洋服を選ぶ等、本人にお聞きし決めて頂く様に心がけている。又自己決定しやすい言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週1度の訪問販売、又運動・ゲーム等その日の体調や気分に合わせて参加する等希望に沿って生活を過ごして頂ける様に心がけているが、職員都合にならない様に注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、洋服の選定や整容に心がけている。又毎日お化粧をする方等見守り支援している。時々寝癖の髪で過ごす事もあり、注意している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(A棟)	自己評価	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	状況により準備、盛り付け、片づけと出来る人が出来ることを一緒に行っている。自分の役割になっており、終わらないと居室に戻らない事もある。	利用者の希望でパン食にしてサンドイッチを作ったり、出前で好きな物を取り寄せている。外食でバイキングを楽しむこともある。畑で収穫した南瓜で、利用者と一緒に南瓜団子を作って味わっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは支援会社管理栄養士が献立、食事形態や味付けを変える等入居者の好みに変更する等柔軟な対応を心掛けている。水分の制限がない為、自由に飲める環境を支援。摂取量は記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	不都合がある場合は、協力歯科医より訪問診療に来て頂いており、口腔ケア等のアドバイスを頂いている。歯ブラシを上手に使えない部分については、状況にあわせ介助させて頂いている。又口腔ケア研修を受け、支援に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンの把握に努め誘導、声掛け、介助を行っている。日中は布パンツ・夜間はDパンツを利用するなどその時の状況を考慮支援を行っている。又便意がない方の排便のコントロールの為、毎日同じ時間帯にトイレ誘導介助を行っている。	現在、半数弱の方がほぼ自立している。各利用者に応じた適切な対応をモニタリングなどで検討しながら、可能な限り昼夜共にトイレでの排泄を支援しておむつを使用しないような取り組みを行っている。職員は、失禁時も他者に気づかれないような言葉かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服薬時間、服薬量の調整も行うが、牛乳、ヨーグルト等乳製品の摂取。体操に腹筋を使う運動を取り入れ予防に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日、時間は決めているが、希望があれば毎日入浴できる体制を作っている。又受診や本人の意向で入れられない場合、曜日にとらわれず支援。週最低2回は、入って頂くようにしている。	午後の時間帯を基本に、週2回以上入浴できるように支援している。週3~4回の入浴希望にも対応できるように、入浴開始時間を早める工夫をしている。入浴剤や柚子湯などを取り入れたり、可能な方は見守りながら一人て入浴してもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、本人のサイクルに合わせた就寝、起床時間を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の把握に努め服薬管理確認を行っている。疑問は、主治医・薬剤師に相談確認を行っている。又副作用については、職員全員が理解できるように心がけている(特に居室担当は、把握するように周知)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割を持つて頂ける様に、出来る部分で、職員と一緒にしている。又散歩、晩酌を楽しみにされている方には、今まで通り提供、支援を行っている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課にされている方には、天候が悪くない限り支援。又ご家族のご協力を頂きながら、外出されている。認知症カフェにも、ご家族と共に出かけている。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒に近くの公園に出かけたり玄関先で外気浴を行っている。季節に応じて花見や紅葉見学、ノーザンホースパークなどに出かけている。個別に買い物に出かけることもある。冬季も認知症カフェに出かけたり、体育館内での散歩なども取り入れていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品は、ホームで立替えているが、金銭管理が可能な方は、本人がお小遣い程度の所持をしており、毎週の売店で買いものに活用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族への手紙、外部からの電話、等取次を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感に少し欠けていた昨年より改善、整理整頓された空間を保つように心がけている。湿度・温度を適度に保ち、装飾には季節感を出すように工夫している。	広々とした風除室を中心に、左右に各ユニット玄関がある平屋建てになっている。居間や食堂、廊下や浴室も広々とした造りで開放感が感じられる。居間や廊下の壁に、利用者が制作した雪だるまの装飾やクリスマスリースが飾られている。写真を多く取り入れた広報紙を発行順に掲示しており、廊下に華やかさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に戻ると1人になれる空間があり、ホールでも談笑する機会等頻繁にある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた、馴染の寝具・家具を利用してもらえる様にしている。ベット等本人に合わせた調整を行うことにより快適に過ごせるように支援、工夫している。	各居室には、タンスやテーブル、ソファなど使い慣れた家具が多く持ち込まれている。窓際の棚などに本人の好きな縫いぐるみや小物を飾り、居心地よく過ごせるような環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを迷われる方には、トイレがわかるように表示工夫、又、出来る事を行う事(保湿タオルを用意準備する等)により、自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社 光洋エステート		
事業所名	グループホーム 日吉 B棟		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方の力もおかり、人としてゆったりした気持ちで生活できるように支援したいと考えています。</p> <p>入居者様・ご家族様がホームでの暮らしが安心できる。楽しいと思って頂ける様に支え合い、共感する支援に努めています。</p> <p>職員の笑顔、穏やかな口調で接することで、気持ちが通じると考えています。職員の意識が変わる事で入居者が変わる。と考え 職員教育に力を注ぎたいと思っております。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0173600487-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス会議等で確認を行っており、共通認識を持つように努め実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事などでは、地域住民(町内会・小学校)との交流を持ち、町内会の催し物にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、勉強会を開催したり、ホーム内の日々の報告を行い地域交流を密にしながら相談させて頂きながら理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ホーム内の日々の報告、入退院状況、介護度の報告を行い又苦情等に対して意見を頂き、サービス向上に活かしています。活発に意見が出る中議事録にまとめ活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔が見える付き合いを心掛けており、疑問、相談、協力依頼もお願いしながら開けたホームに努めている。運営推進会議に参加している。又わからない事、疑問なことは、相談し協力関係を築く様に取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に研修を行い身体拘束について学ぶ機会を設け周知しており、不適切な言葉かけについても、研修を行っている。夜間は施錠しているが日中は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも参加身体拘束について、学ぶ機会を設けている。カンファレンス会議でも、不適ケアの勉強会各ユニットでも、意識をもち日々取り組んでいる。理念と共に取組み宣言書として掲示している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様された方が、今後成年後見制度の利用する予定をしており、活用について支援できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得頂ける様に説明、同意頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。ご家族の面会時には意見、要望を聞く様にしている。要望については、プランに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職会議又毎月の報告等で、実績、勤務状況を報告し、意見等提案できる機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に力をいれ反映させている。、又管理者は、職場環境の整備・職員のやりがいを持てるように、責任を持って仕事ができるように見極め行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て就業年数により見合った研修を受けて頂くよう努めている。又支援会社と合同研修も企画し向上できる様進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会等にて研修会・親睦会へ参加できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目		外部評価	
		自己評価(B棟)	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった時には、ご家族様と本人と信頼関係が出来るように努め、入居時には、家族様からの情報を基に、本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や悩みを共有しながら傾聴し時間をかけ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、職員の話し合いにより今までの生活により添った支援を見極め対応に努めている。又レンタルの相談も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今出来ることを見つけて出来る限りスタッフと一緒に歩いていく等の工夫をしている。又話しやすい、分かりやすい内容でコミュニケーションをとれるように関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で、ご家族に相談、報告し、必要であれば面会の頻度の調整をお願いしたり、受診対応頂いている。ホームと一緒に支援することで、家族の絆を大切にし本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が、久しぶりに会う、ご親戚、ご兄弟と合われ、昔を思い出し話されている。又本人は言葉が出ないが、優しい表情をされたり、笑顔が出る等関係が途切れない様に、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者の方達には、話しやすい場を提供している。他者とうまく交われない入居者には、スタッフの介入や接点を慎重に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、面会に行く等関係を継続、ご家族さまが相談に来られた時には、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族様から希望・意向を聞き検討支援に努めている。又担当者を決めより深く関わられる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人、家族から今までの生活歴を聞きフェイスシートの更新を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の様子等を参考にしカンファレンスでスタッフ間で話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で毎月、モニタリングや意見の集約を行い、ご家族様が来所された場合や電話などで相談話し合い、計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	意見集約表にて、各スタッフから意見を参考にした上で計画の見直しを行い、カンファレンスにて全スタッフの周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の希望(パン食)、入浴日の変更を柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、町内の行事、小学校の行事などへ参加。楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご本人 ご家族様の意向にそって行っている。受診対応がご家族の場合、Dr宛に状況報告書を提出している。又健康管理等も含め定期受診及び随時受診を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2W1に一度、訪問看護師に相談アドバイスをもらっている。又体調不良時には、相談し指示を頂き適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等により、医療機関に提出している。早期退院に向け、病院からの情報を頂き、退院できるように相談に努めている。又日頃から、病院関係者(相談員)と連絡を取り合い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針について説明、署名捺印を頂いている。ご家族の意向を出る限り希望に沿いたいが、事業所で出来る事、出来ない事を十分説明する。しかし納得いただけない所があり、今後話し合いを持つように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には、「普通救命講習」を受けて頂き、実践力を身に付ける様に心がけているが、定期的には行っていない。今後検討していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。又地域の津波避難訓練にも参加、万が一の場合の協力要請を日頃より心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前に、入居者への声掛け及び対応に配慮が欠けているとの指摘があり、職員全員で認知症の理解と共に人格を尊重した言葉かけ等研修を繰り返している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 外日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の決定、飲み物を選んだり、洋服を選ぶ等、外出等の希望など、本人にお聞きし決めて頂く様に心がけている。又自己決定しやすい言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望・要望に出来るだけ添った形で卒にはめる事のないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、洋服の選定や整容に心がけている。又毎日お化粧をする方等見守り支援している。時々寝癖の髪で過ごす事もあり、注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が、やりたいと思うことを行って頂き、スタッフは、さりげないフォローを行う事を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは支援会社管理栄養士が献立しているが、嫌いなものなどの代用品、食べやすい大きさ、形、等個人に合わせて形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	不都合がある場合は、協力歯科医より訪問診療に来て頂いており、口腔ケア等のアドバイスを受けている。歯ブラシを上手に使えない部分については、状況にあわせ介助させて頂いている。又口腔ケア研修を受け、支援に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンの把握に努め誘導、声掛け、介助を行っている。日中は布パンツ・夜間はDパンツを利用するなど、その時の状況を考慮支援を行っている。又便意がない方の排便のコントロールの為、毎日同じ時間帯にトイレ誘導介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服薬時間、服薬量の調整も行うが、牛乳、ヨーグルト等乳製品の摂取・体操に腹筋を使う運動を取り入れ予防に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日、時間は決めているが、希望があれば毎日入浴できる体制を作っている。又受診や本人の意向で入られない場合、曜日にとらわれず支援。週最低2回は、入って頂くようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は、本人のタイミングで行っている。生活リズムが崩れない様に適切な介入を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを(薬状綴り)を作成し、分かりやすく、変更にもすぐに対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割を持って頂ける様に、本人の趣味の継続、やりたい事の支援、生きがいを見つける事の提案、散歩への誘い等支援している		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って散歩買い物同行を行っている。又認知症カフェに参加している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品は、ホームで立替えているが、金銭管理が可能な方は、本人がお小遣い程度の所持しており、毎週の売店で買いものに活用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族への手紙、外部からの電話、等取次を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感に少し欠けていた昨年より改善、整理整頓された空間を保つように心がけている。湿度・温度を適度に保ち、装飾には季節感を出すように工夫している。又動線を安全に歩行できるよう家具の配置を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に戻ると1人になれる空間があり、ホールでも談笑する機会等頻繁にある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた、馴染の寝具・家具を利用してもらえる様にし、快適に過ごせるように支援、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを迷われる方には、トイレがわかるように表示工夫、又、出来る事を行う(洗面台掃除、タオルたたみ等)事により、自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム日吉

作成日：平成 27年 12月 15日

市町村受理日：平成 27年 12月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議内容にメインテーマを記載し、参加出来ない家族の意見をも話題にし、質疑応答、意見、情報交換等の内容が具体的にわかるような議事録の工夫に期待したい。	メインテーマを決め、意見を頂きやすく内容を工夫する。 又、議事録の工夫をする。	年間6回の運営推進会議で ・メインテーマを決める。 ・議事録の記載工夫する。	2ヶ月
2	26	出来ている部分もあるが、短期目標に添って、サービス内容を記録する時に、いつもと違う状態の変化なども記載し、次の見直しに活かされるような記録の方法に期待したい。	介護記録に記載、プランの目標を把握し、日々の状況を記録する。	介護記録を入居者担当・計画作成は、介護記録を確認、指導する	1年
3	35	昨年に引く続き地震などの災害を想定し、居室や居間などの安全面の確認やケア場面での対応について職員間で話し合う事を期待したい。	毎日、自主検査チェック表を記載(実施中)。職員から安全面、ケア場面で話し合う。	防火担当者会議を年2回実施しているので、話し合い、職員間で共有する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。